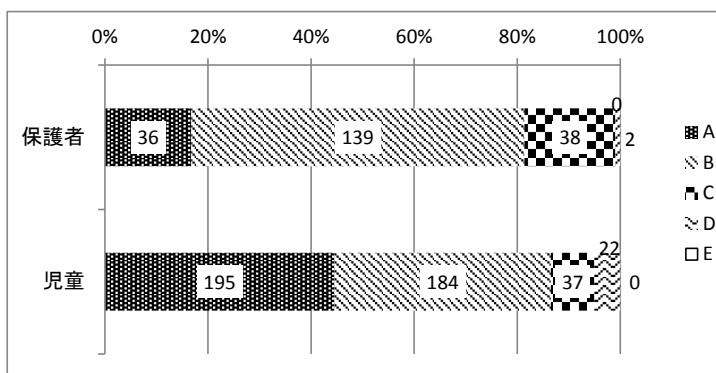


1. 児童は、「授業が楽しい」「よく分かる」と感じている。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	36	139	38	2	0	215
児童	195	184	37	22	0	438

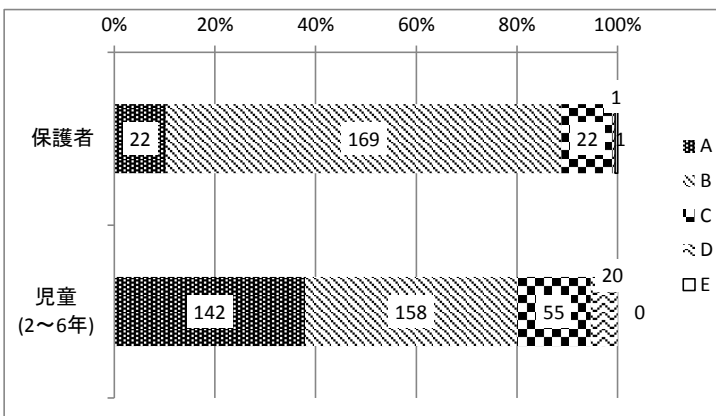
<考察>保護者・児童の肯定的な回答が約80%以上ありました。学校では、児童が主体的に学習に取り組めるよう視聴覚教材、具体物など提示資料を活用しています。また、ペア学習やグループ学習を取り入れるなど学習形態を工夫して指導しています。さらに、国語、算数を中心に、補助員を配置して丁寧な指導に努めています。児童のつまづきを見落とさず、「勉強がわかった。できた。」という児童がさらに増えるよう、教員研修を深め、授業をいっそう充実させていく必要があると考えています。



2. 学校は、学力の向上に努めている。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	22	169	22	1	1	215
児童 (2~6年)	142	158	55	20	0	375

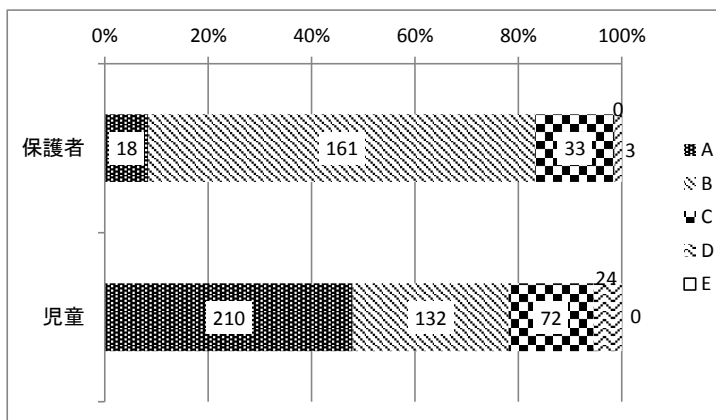
<考察>保護者の肯定的な回答が約90%、チャレンジタイムを行っている2~6年の児童の肯定的な回答が80%でした。算数では、3年生以上を対象として単元ごとに習熟度別の少人数指導をしています。新しい単元が始まる前に、児童は復習プリントに取り組んで、次の学習で自分に合った学び方ができる教室を選択しています。1・2年生では、学級担任以外に学習補助員・講師を配置して授業を行っています。また、毎年度、実施される6年生の全国学力調査、5年生の東京都、4年生の市の結果を受けて、学校全体でどのように授業を改善していくのかを考え、全教員で共有しながら指導していきます。



3. 学校はいじめが起きないように努力している。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	18	161	33	3	0	215
児童	210	132	72	24	0	438

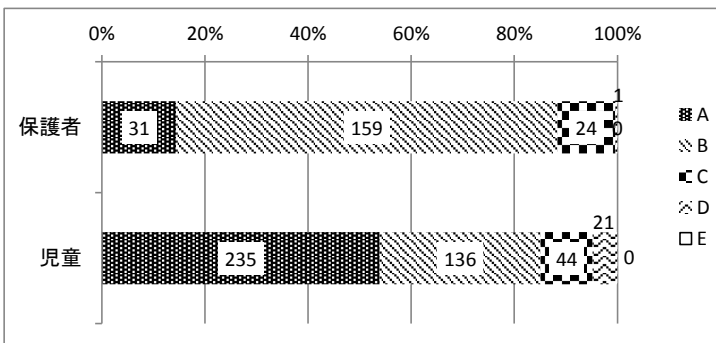
<考察>保護者の肯定的な回答が80%以上、児童の肯定的な回答は80%をわずかに下回っています。教員間では、校内委員会や毎週水曜日の職員朝会等で、普段の児童の生活について情報を共有して指導することを続けています。また、スクールカウンセラーや巡回相談員と連携しながら、個に応じた指導や支援・配慮に取り組んでいます。全児童を対象にしたスクールカウンセラーとの個人面接や年に2回のおいじめに関するアンケート等を実施していくことを通して、いじめの未然防止や早期発見、問題の解決につなげていけるよう努力していきます。



4. 学校は、児童の体力の向上を目指して取り組んでい

	A	B	C	D	E	合計
保護者	31	159	24	1	0	215
児童	235	136	44	21	0	436

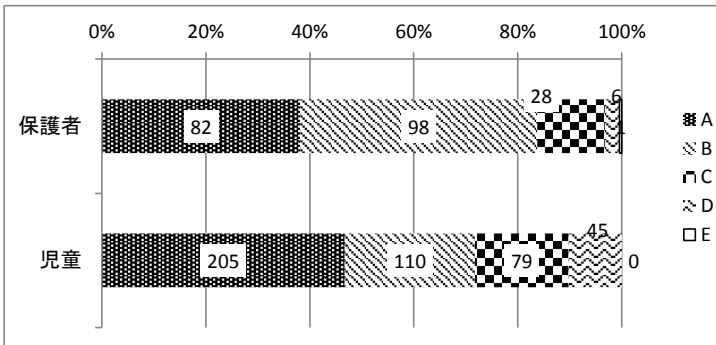
<考察>保護者、児童とも、肯定的な回答が80%を超えています。ボール遊びや遊具での遊びなど、休み時間に、外で積極的に遊ぶ児童が多く見られます。これからも体育の授業の中で、25分以上の運動量の確保と共に、学習カードの活用や、体力テストの分析による体力向上の取組や授業改善、休み時間の外遊びの推進などで、児童の体力の向上に取り組めます。



5. 児童は、進んで外で遊んでいる。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	82	98	28	6	1	215
児童	205	110	79	45	0	439

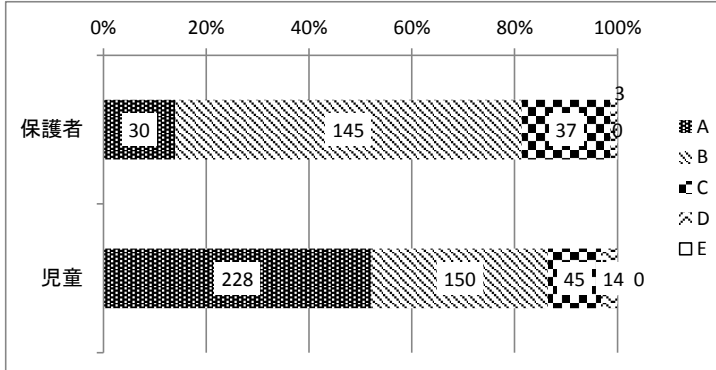
<考察>児童の肯定的な回答が、80%を下回っています。引き続き、積極的に外に出るように児童に声をかけていきます。今年度は、教師の指導のもと体育委員が休み時間に放送を入れたり、各クラスに呼びかけをしたりし、委員会の児童が主体となって外遊びを促しています。これまでの遊具の整備に加え、今後は持久走週間や縄跳び週間を行い、進んで外遊びをしようとする意欲と態度を育てていきます。



6. 学校は児童の理解に努めている。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	30	145	37	3	0	215
児童	228	150	45	14	0	437

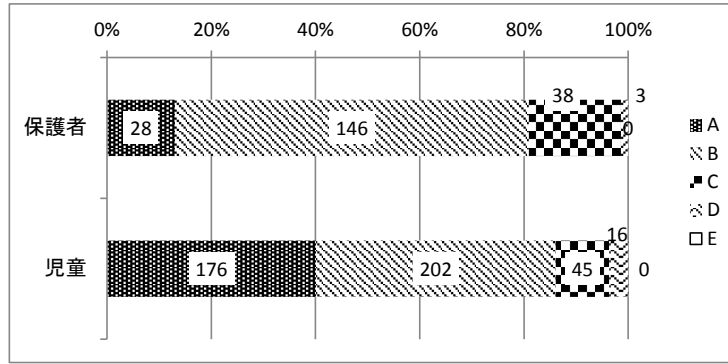
<考察>保護者、児童ともに80%以上の肯定的な回答を得ることができました。とくに児童の「とてもそう思う」の回答が半数を超えていることは、教員と児童との間で良い信頼関係が築けていると考えられます。しかし、50名程の児童は否定的な回答であったことを真摯に受け止め、よりよい信頼関係ができるよう努めていきます。また、保護者との連携を密にし、双方向から児童を見守ることができるようにしていきます。教員間では、生活指導朝会や校内委員会を通して学校全体で情報交換を行い、適切な対応ができるよう努めてまいります。



7.学校は、児童に特別支援教育の内容を理解させることに努めている。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	28	146	38	3	0	215
児童	176	202	45	16	0	439

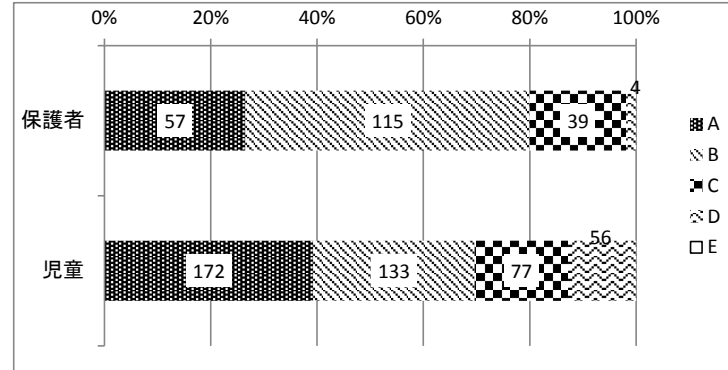
<考察>昨年度までは保護者の回答が80%を下回っていましたが、今年度は、肯定的な回答が81%でした。児童は85%以上でした。昨年度から、コミュニケーションクラスの体制が少し変わり、水曜日と金曜日のみ、西小でのクラス開設となっています。保護者の方に向けては学校便りで「コミュニケーションの窓」としてクラスの様子を月1回発信しています。児童には理解教育として、4月の全校集会での紹介やクラスごとの体験授業を1、2学期に行いました。児童からは、「コミュニケーションクラスではどんなことを勉強しているのか分かった。」「体験授業がおもしろかった。」等の感想が寄せられています。また、あきる野学園との交流会を2年生と5年生で行い、副籍の児童との交流も行っています。これからも保護者の方に向けて様々な場面で、実際の活動の様子を発信していく必要があると考えます。



8.児童は学校で、読書活動に親しんでいる。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	57	115	39	4	0	215
児童	172	133	77	56	0	438

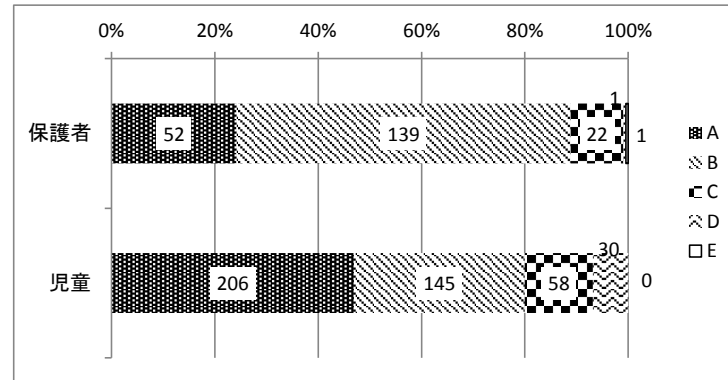
<考察> 保護者は肯定的に捉えています、児童の割合が70%弱でした。週に1回の図書室利用はほとんどの学年が行っていますが、休み時間に図書室を利用する児童は限られています。1学期には読書週間を利用して、毎年恒例となっている、保護者や地域の方による読み聞かせが行われました。主に低学年では、児童が隙間時間を利用して本が読めるよう中央図書館を利用して教室に図書を配置しています。全校で、図書室の本を常に教室において読めるようにしています。夏休みには、普段より多くの本を読んでいる児童がみられ、9月には、新着図書展示会を開きました。これからもいろいろな機会を通して、本に親しむ児童を育てていきたいと考えています。



9.学校は、地域の協力を得て、学習活動を行っている。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	52	139	22	1	1	215
児童	206	145	58	30	0	439

<考察>保護者、児童とも肯定的に捉えています。保護者の方から90%近い、肯定的な回答を得ることができました。高学年は、稲作(5年生)や菊作り(6年生)で、年間を通じて地域の方々にお世話になっているため、地域の方に親近感をもって接しています。低・中学年は年間通してという機会は少ないですが、1年生は芋掘り、2年生は町探検、3年生は社会科見学、獅子舞、4年生は盲導犬学習など、地域の協力を得て学習活動を行っています。これからも、地域とのつながりを強調した教育活動を心がけていきます。取り組み内容も引き続き、お便りやホームページ等で発信していきます。



10.学校は外国語活動の充実に向けて取り組んでいる。

	A	B	C	D	E	合計
保護者 (3~6年)	29	100	27	2	0	158
児童 (3~6年)	167	75	27	24	0	293

<考察>保護者、児童とも80%以上が肯定的な回答をしています。校内研究の外国語活動も2年目を迎え、日々、試行錯誤しながら、平成32年の高学年・外国語科、中学年・外国語活動の全面実施に向けて準備を進めています。児童が、友達やAET、担任と、英語でコミュニケーションをとることを楽しむことができるようにさらに授業を充実させていきます。これからも、外国語活動に苦手意識をもつ児童に寄り添った授業づくりを行っていきます。

